

“プレイズ・ワーシップ” ～安田美穂子姉・賛美と証し～を聴いて

上田忠敏(岸和田聖書教会員)

☆日時・場所 …2012年9月3日(月) 18:45～20:30 北浜スクエア 9F 参加者 66名

☆主催 …ミッション・宣教の声(黒田禎一郎牧師)

☆演奏者 …安田美穂子(ヴォーカリスト) 川島洋一(ピアニスト)

☆演奏曲目および解説、証し

1. ルック・アット・ザ・ワールド(Look At The World)

讃美歌は神様のメッセージでもある。子供の時に歌った子供讃美歌の歌詞が後年、頭の中に浮かんで来て、励まされた経験がある。聖書の言葉には力がある。

2. 恐れなく近寄れと

3. 球根の中には

私は南千里の千里聖愛教会に所属している。小さな子供たちに歌う愛唱歌に「球根の中には」という歌があるが、何事も神様の時の中で導かれていくことを感じる。

4. いのちの歌

NHK 朝の連続ドラマ「だんだん」の中で歌われていた曲。

5. 君を乗せて～アニメ「天空の城ラピュタ」より～

先日コンサートの帰りのエレベーターの中で、子供連れのお母さんに「アニメソングも歌われるのですか」と尋ねられた。今日その方は来られていないようですが、「天空の城ラピュタ」の中で歌われている歌を歌う。我が家の子供は、長男 27 歳、長女 25 歳、次男 15 歳ですが、子供たちもアニメが大好きで、ゴミを捨てる時も「海に捨てて～」と言いながら屑籠に捨てている。

アニメソングを歌っていると「楽しそうね」と言われる。私は小さい時から教会に通っていたが、父の転勤で4回転校した。失敗や悪いことがあっても、転校の度毎に自分を「リセット」することで乗り切ることができた。しかし中学3年の時、初めて友人関係のことで悩んだ。これまでは、簡単にリセットすることでやって来れたが、自分の心の中に虚栄心、利己心…があり、どうしても「ごめんなさい」が言えなかった。問題を他人に責任転嫁したり…、これが罪なのだと気付いた。

こんな自分は変わりたい、赦されたい、新しい自分になりたいと思った時、「イエス様が自分の罪の身代わりになって十字架にかかって死んでくださった」という思いが自分に迫ってきて、キリストを信じることができた。キリストによって新しくされ、クリスチャンになってからは周囲の景色も違って見えた。「かんちゃん(旧姓: 神原美穂子)変わったね!」と言われた時、神様によって自分は変えられたのだと思った。「見よ。わたしは、すべてを新しくする」(黙示録 21:5)

高校2年の時音大に進まないかと勧められた。突然進路が変わり、神戸女学院大学音楽学部に進学した。

道具は自分の意志を持たない。使う人の意志で使われる。

自分が「取り柄」だと思っていることが、実はそうではないかもしれない。こだわらないで、力を抜くと新しい道が開かれる。取り柄は好きだということにリンクしている。自分の取り柄は一体何だろうかと悩む前に、まず身近なことから始めてみるとよい。

結婚して数年間、音楽から遠ざかった時、声が荒れて歌えなくなった。たった一つのできること“歌”が歌えなくなった時、神様の前には何一つ誇るができないことを思い知らされ、絶望感に満ちた。

その時突然、聖書の言葉が与えられた。「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」(イザヤ書 43:4) 私は感謝の気持ちで震えた。

「神様、どうぞ私をあなたの道具にしてください。何でもよいから、私を神様の道具にしてください。」と祈った。自分からあれができる、これができないと言わず、自分はまず真っ白に空っぽになって道具になりきった時、神様が最も良い方法で自由に私を使って下さる。

あれから 15 年後、声が出なくなり歌えなかった私が、こんなに欠けの多い私を、神様は歌えるようにして下さった。「あらゆる良いものは天からの贈り物だ」と私は信じている。

6.2 ペンスを鳩に～ミュージカル「メリー・ポピンズ」より～

7.虹の彼方に～ミュージカル「オズの魔法使い」より～

8.踊り明かそう～ミュージカル「マイフェアレディ」より～

これまでいくつかの試練に出会った。4年前に夫が癌で天に召された。

夫は明るくてユーモアのある人だったが、完璧主義だったので、教会からもいつしか離れて、家族にもつらく当たった。癌であることが分かり、夫はどん底に突き落とされ鬱病に陥った。

ある日、夫は聖書を読み、日記をつけ、讃美歌を口ずさみ始めた。神様が傍におられることが分かった。夫の表情は明るくなり、7ヶ月間の闘病生活の日々は、暖かさと平安に満ちていた。

夫は「たくさんの人に、讃美歌を歌って聴かせてあげて」と私に言い残してくれた。

9.感謝します

10.わが存在は神の恵み

私たちの存在すべては“神様の恵み”だと思う。人生を振り返った時に、金太郎飴のように「どの瞬間を切っても神様とつながっている人生」でありたいと願っている。

11.ノー・モア・ナイト(No More Night)

最後の曲「No More Night」は、「もはや闇もなく、痛みもなく、悲しみもない」救われた喜びを歌ったものです。夫も私も好きな聖書の言葉は、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」(テサロニケ I 5:16-18)。どんな状況にあっても、このみことばは私を励ましてくれる。

…以上、上田忠敏さんのレポートでした♪